

図 3.20 multicomponent pattern (多構築パターン)：悪性黒色腫

ある Peutz-Jeghers 症候群や色素沈着型の蕁疹でも同様の所見をとる。また、真皮内母斑や複合母斑の一部で、parallel ridge pattern に近い所見を認めることがある。

7. multicomponent pattern 多構築パターン

多くの良性メラノサイト系母斑は均一なダーモスコピー所見をとり、1～2種類のパターンで記載可能である。3種類以上の所見が混在している状態を multicomponent pattern といい、悪性黒色腫の可能性を疑うべき所見である (図 3.20)。

そのほか、メラノサイト系病変の所見が非対称性、不均一、自然消退が一部でみられる、あるいはいずれのパターンにも当てはまらない場合などでも悪性黒色腫を疑う。

C. 基底細胞癌 dermoscopic findings in basal cell carcinoma



図 3.21 arborizing vessels (樹枝状血管)

レベル1でみられるメラノサイト系病変の所見、とくに pigment network がみられない場合は、次に示す基底細胞癌 (22章 p.444 参照) に特徴的な所見の有無を検討する (レベル2)。

1. arborizing vessels 樹枝状血管

★

腫瘍表面を走行する拡張した毛細血管を反映して、分枝状ないし稲妻状で太さの不均一な血管を認める。とくに色素を伴わない白人の基底細胞癌の診断に有用である (図 3.21)。ダーモスコブを強く当てすぎると、毛細血管拡張がみえないことがあるので注意を要する。

2. multiple blue-gray globules / large blue-gray ovoid nests 多発青灰色小球 / 大型青灰色類円形胞巣

両者は本質的に同一の病態である。塊状のメラニンを有する腫瘍病変を反映して、白いベールがかかったような青色調の塊が観察される (図 3.22)。単一の胞巣を形成した場合は青色母斑と類似する所見を呈する。

3. ulceration 潰瘍形成

基底細胞癌では 50～60% に大小の潰瘍〔さみしよく 蚕食性潰瘍 (rodent ulcer)〕を伴い、ダーモスコピーで初期の潰瘍を観察することが可能である。

4. spoke wheel areas 車軸状領域

表在型の基底細胞癌で見られる。表皮の腫瘍病変を反映して、中央から放射状に伸びる線条を形成する。通常複数個出現し、それぞれが連絡しあって環状の構造をつくる (図 3.23)。

5. leaf-like areas 葉状領域

褐色～灰黒色の葉状構造を示す色素沈着であり、病変の辺縁部にみられる。しばしば spoke wheel areas に近い形状を示し、表皮と連続した腫瘍胞巣の延長を反映していると考えられる (図 3.24)。

6. shiny white areas 光沢性白色領域

光沢を伴う白色～淡紅色無構造領域で、主に表在型基底細胞癌において認められる (図 3.24)。真皮の線維化を反映している。



図 3.22 multiple blue-gray globules/large blue-gray ovoid nests (多発青灰色小球 / 大型青灰色類円形胞巣)

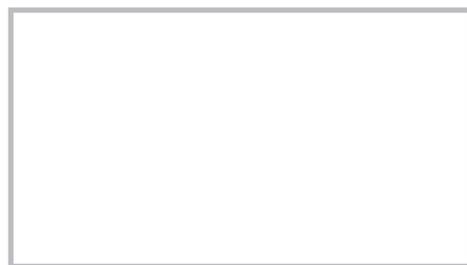


図 3.23 spoke wheel areas (車軸状領域)



図 3.24 leaf-like areas (葉状領域, 矢印) と shiny white areas (光沢性白色領域, 矢尻)

D. 脂漏性角化症 dermoscopic findings in seborrheic keratosis

メラノサイト系病変や基底細胞癌に特徴的な所見を欠く場合、次の段階として脂漏性角化症 (21 章 p.406 参照) の所見について検討するとよい (レベル 3)。

1. comedo-like opening めんぼう 面皰様開大 ★

大小さまざまな黒褐色で境界明瞭な貯留物質を認める (図

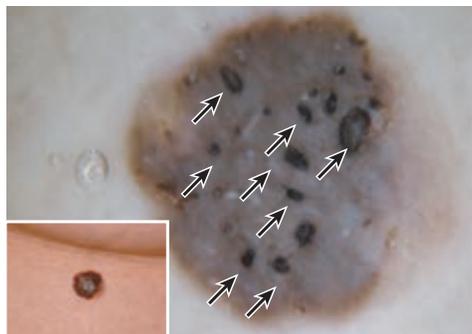


図 3.25 comedo-like opening (面皰様開大)



図 3.26 multiple milia-like cysts (多発性稗粒腫様嚢腫)



図 3.27 (light-brown) fingerprint-like structures (指紋様構造)



図 3.28 fissure and ridges (溝・隆起)

3.25, 矢印). 病理組織学的にみられる角栓に対応する.

2. multiple milia-like cysts 多発性稗粒腫様嚢腫 ひりゅうしゅ ★

褐色の病変の中に、若干境界不明瞭な白色点を認める (図 3.26, 矢印). 脂漏性角化症の偽角化嚢腫 (pseudohorn cysts) に対応する. 外観が稗粒腫 (21章 p.417 参照) を思わせることからこの名がついた. 嚢腫型の基底細胞癌や有棘細胞癌などでもみられることがある.

3. (light-brown) fingerprint-like structures 指紋様構造

病変の辺縁に淡褐色の境界明瞭な斑を認め、指紋のような模様を伴う (図 3.27). 脂漏性角化症の前駆病変としての老人性色素斑 (16章 p.312 参照) を反映していると考えられる.

4. fissure and ridges 溝・隆起

脂漏性角化症で著明な乳頭腫をきたした結果、その部位が脳回状にみえる状態をいう (図 3.28). cerebriform pattern, brain-like appearance (脳回転様外観) とも呼ばれる.